

滋賀県と湖南省友好提携30周年記念事業
洞庭湖・琵琶湖流域共同環境セミナー

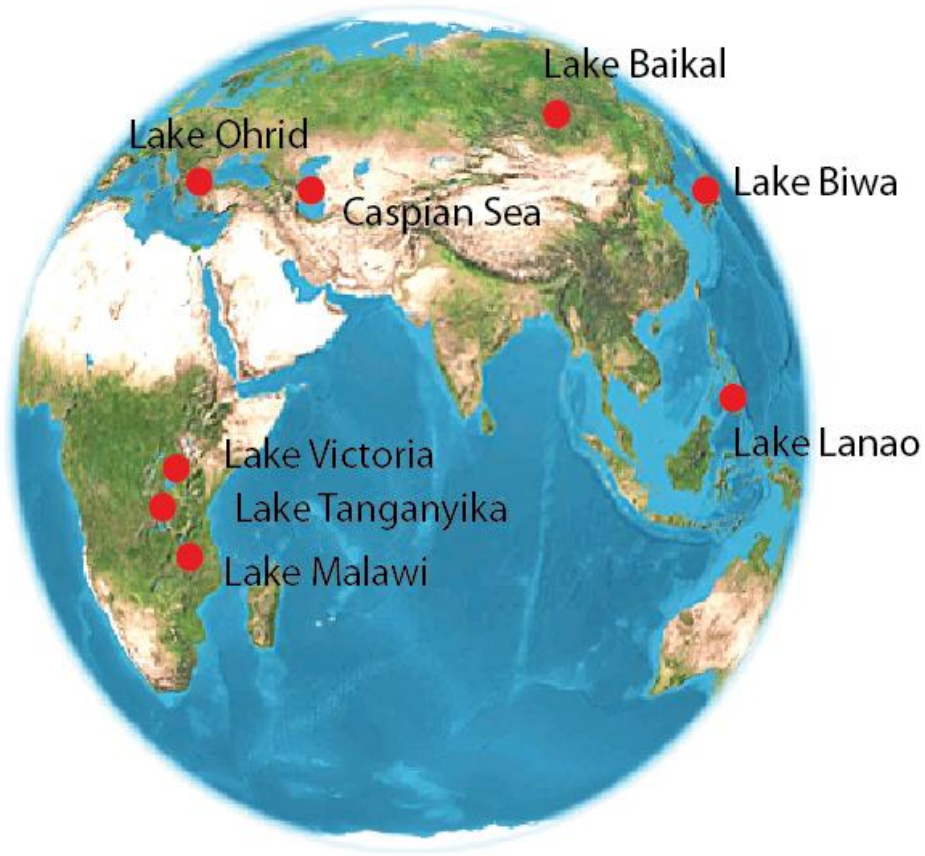
湖の保全と暮らし

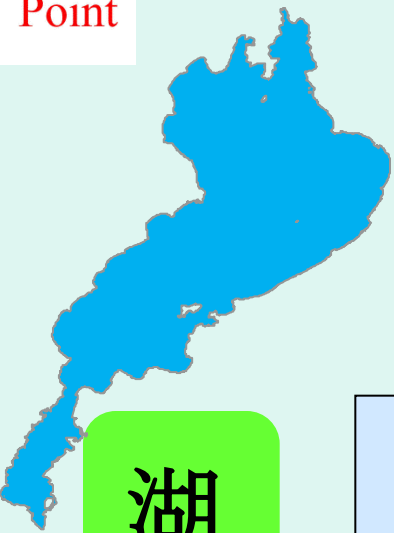
楊 平

滋賀県立琵琶湖博物館

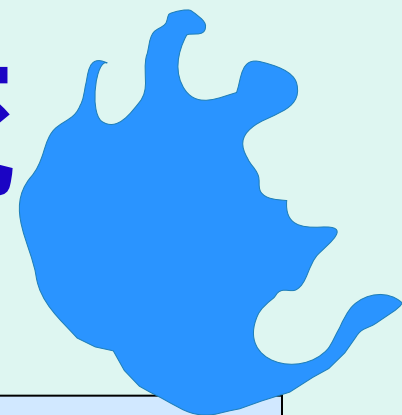


湖の保全と生活文化



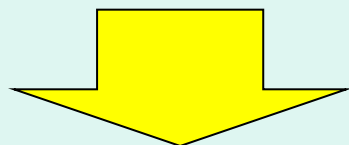


湖沼同士の交流



湖の保全と暮らし

生活文化を通して、湖沼間の会話へ



- ・共通性
- ・相違性

湖沼は「会話できる」存在

主な内容

湖や周辺流域の環境保全

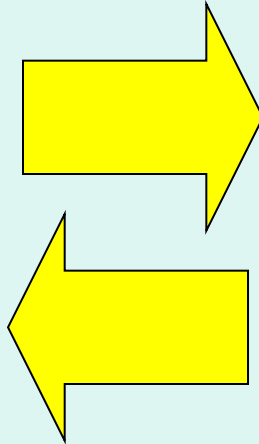
暮らしの中から

保全の新たなヒントを考える

- ・湖沼間の共通性
- ・生活環境主義的発想と政策実践
- ・住民参加と博物館

湖沼環境の問題群

人々の生活
への影響

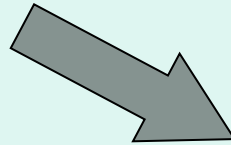


- ・湖沼環境の変化
- ・水質汚濁
- ・湿地の減少など
- ・生物多様性喪失など

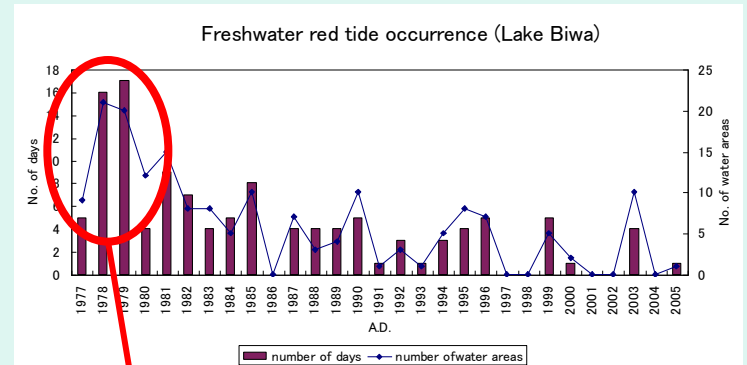


かつての琵琶湖の環境

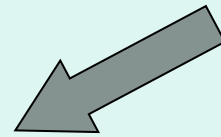
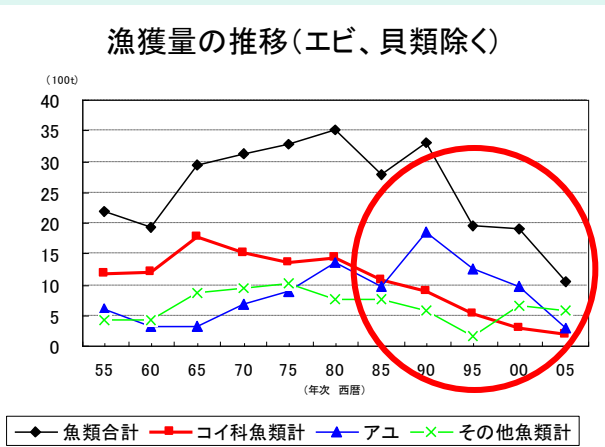
(1) 洪水



(2) 水質汚濁(70年代～)



(3) 生物多様性と湖の保全(90年代～)

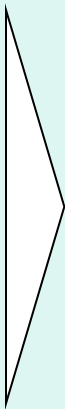


住民発の石鹼運動

生物の変化

琵琶湖と中国の湖沼環境

共通した 湖の環境 問題

- 
- (1) かつての洪水への対応、治水・利水など
 - (2) アオコや赤潮などの水質汚染への多様な対策
 - (3) 生物多様性の課題
 - (4) 湖周辺の多様な環境改変に伴う暮らしの変化
 - ・湿地や水域の減少、漁村の減少など
 - ・例えば、太湖においては、環境整備や生態系保全へ向けて、多様な取り組みの実施

各時期において、多様な環境問題の解決へ向けて、
様々な政策の実施

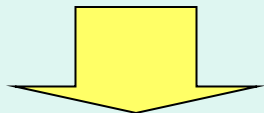
一方、多様な環境改変に伴い、湖と暮らす人々の生活
の知恵や文化は？

環境保全と暮らし

湖・流域

生活・生業をめぐる湖や水環境の変化

- ・ 湖と暮らす人々の共有観／歴史的に形成
- ・ 生活環境の側面からのアプローチ(嘉田2004; 鳥越1996など)



「望ましい」湖・水環境
文化的背景(暮らしをベースに)

暮らしから 湖の保全を考える

- ・社会学 ▶ 湖(水)と人との関わり
-

・生活環境と
湖の保全

- ・湖の環境改変－環境変容の歴史的背景
- ・暮らしと環境の変化－生業・生活
- ・湖の保全

生活・生業を中心とした暮らしをベースに
湖の保全へ・・・

環境をいかに保全？

近代技術主義

自然環境の悪化

→水質浄化、汚泥の処理、水草の除去

「技術」によって、環境を改善へ

自然環境保全主義

「自然治療」、「自然まかせ」

人々の「関与」を排除

生活環境主義

→ 生活者・居住者の立場

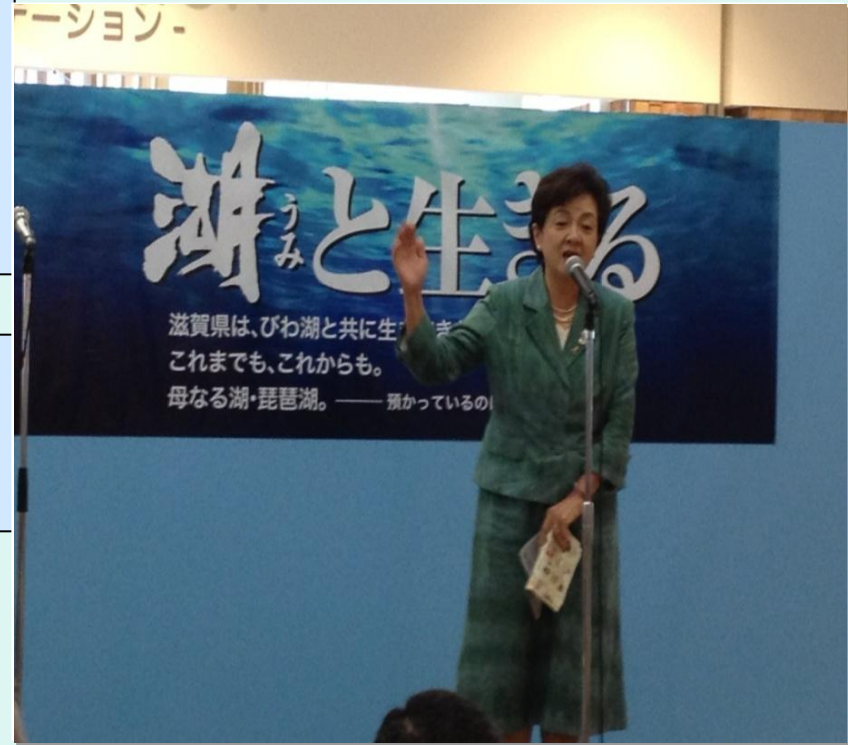
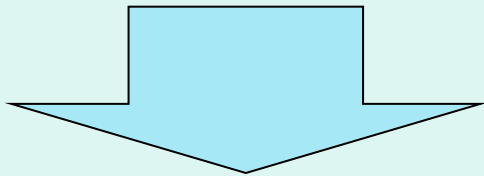
生活環境主義と政策実践

提唱者：

嘉田由紀子ら（滋賀県知事）

1980年代～琵琶湖の調査をもとに

ホタル調査の実施とその影響
様々な政策提案と実践など



生活環境主義的発想から政策提案へ

琵琶湖の調査から

(1) 1974年代～1980年代

- ・「暮らしと自然」
- ・琵琶湖周辺でのさまざまな調査

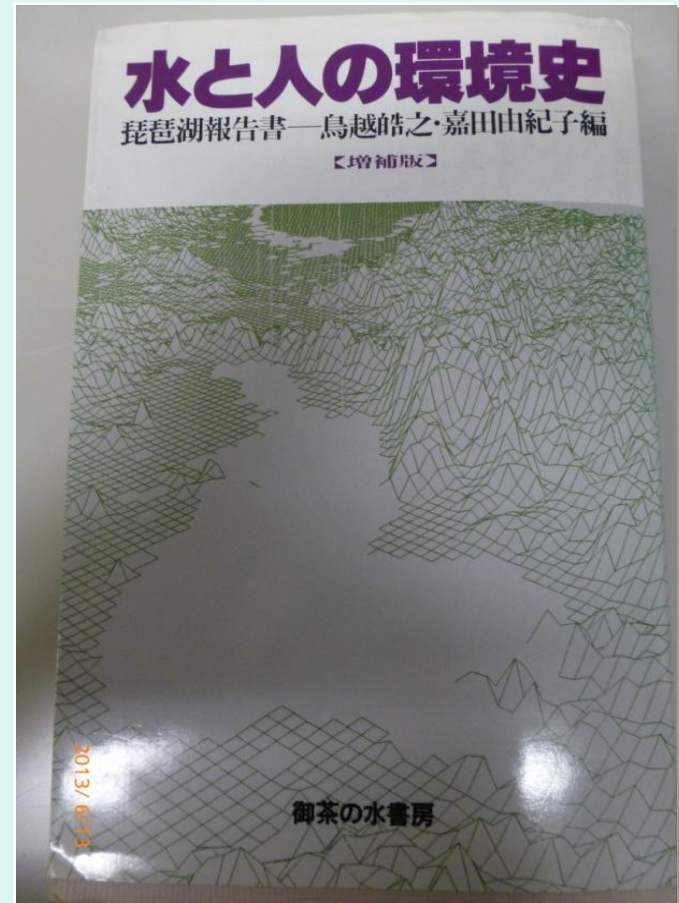
著作 『水と人の環境史』

鳥越皓之・嘉田由紀子編

(2) 1980年代～1990年代

- ・嘉田由紀子「水環境カルテ」等様々な調査
- ・「住民参加型調査」「水・水辺環境調査」
- ・住民参加による保全活動の活発化へ

- ・琵琶湖博物館の提案（1985年）
- ・琵琶湖博物館建設・開館（1996年）
- ・フィールドレポーター・はしかけ制度



1984年出版

琵琶湖からの発信

「便利になって失ったもの」



琵琶湖に関する初の実証研究



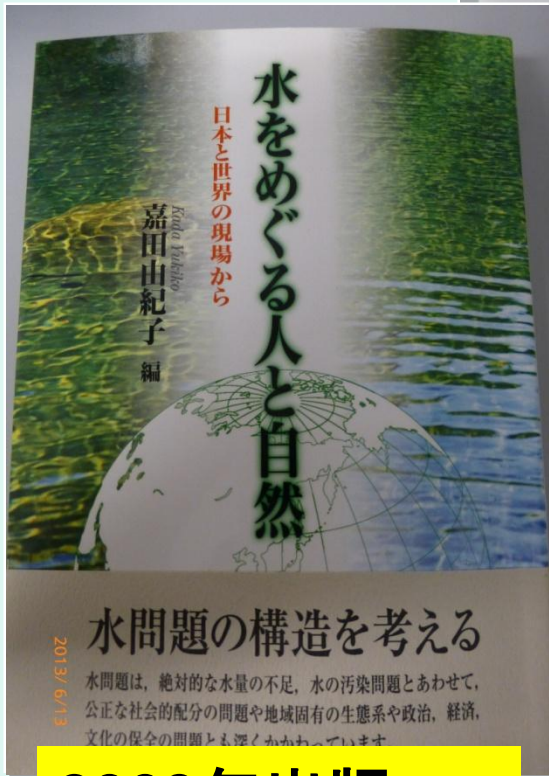
嘉田由紀子知事
1984年 毎日新聞

1984年 朝日新聞

1984年 京都新聞

環境保全と生活

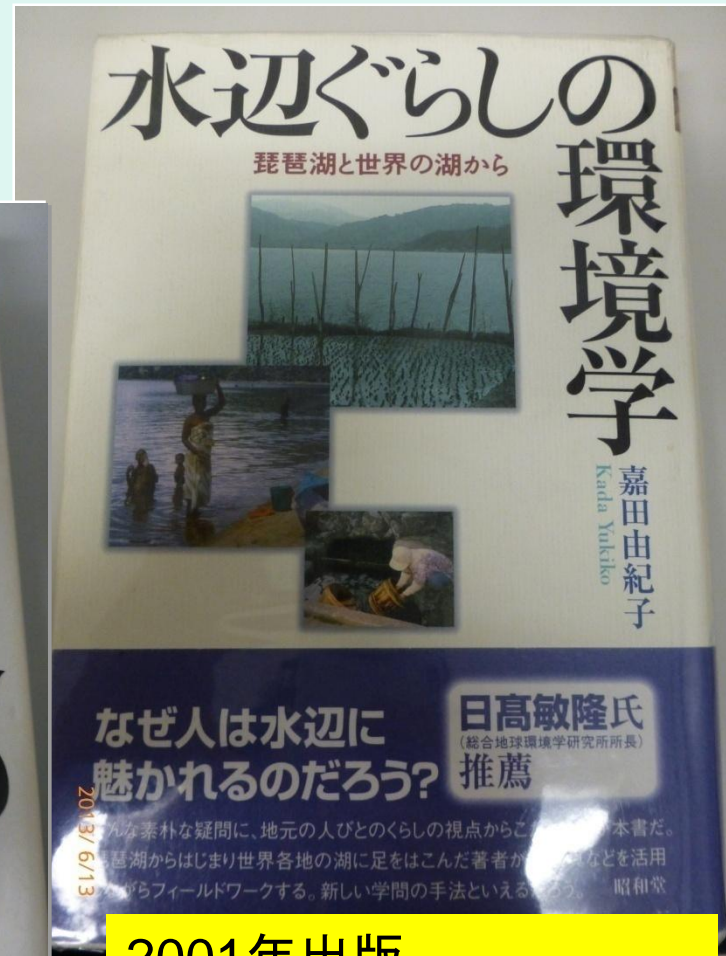
様々な
著書



2003年出版
「人と自然」



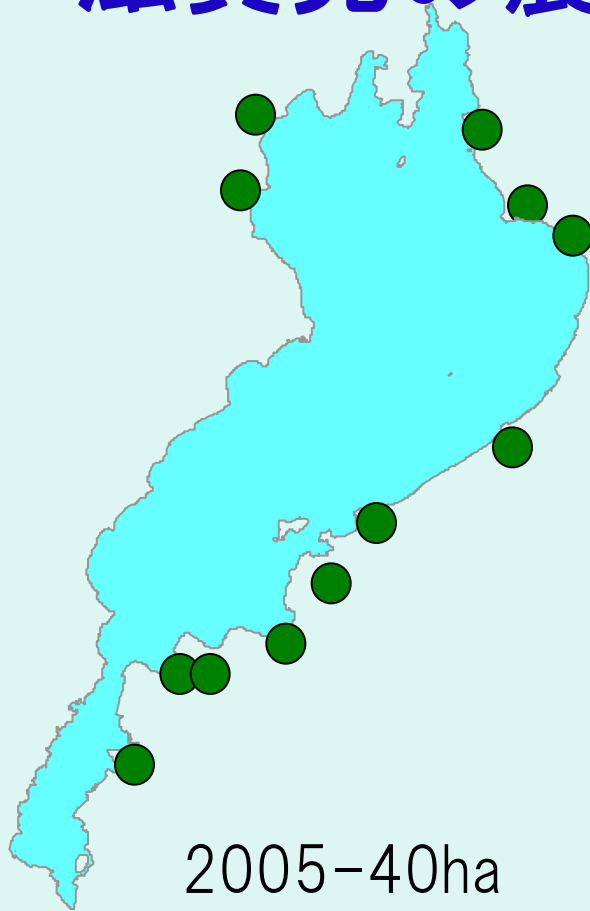
1995年出版
琵琶湖からのメッセージ



2001年出版
「琵琶湖と世界の湖から」

湖再生の一環として

→ 滋賀発の農業政策 **ゆりかご水田**



2005-40ha
2009-111ha



湖全体の生態系の回復へ向けて

湖沼保全と 生活環境主義の有効性

- ・住民参加と保全活動
- ・政策実践へ
『マザーレイク21』
ゆりかご水田政策の
実施など
- ・博物館活動



地元の方々との共同調査資料(館内所蔵)

住民参加と博物館展示



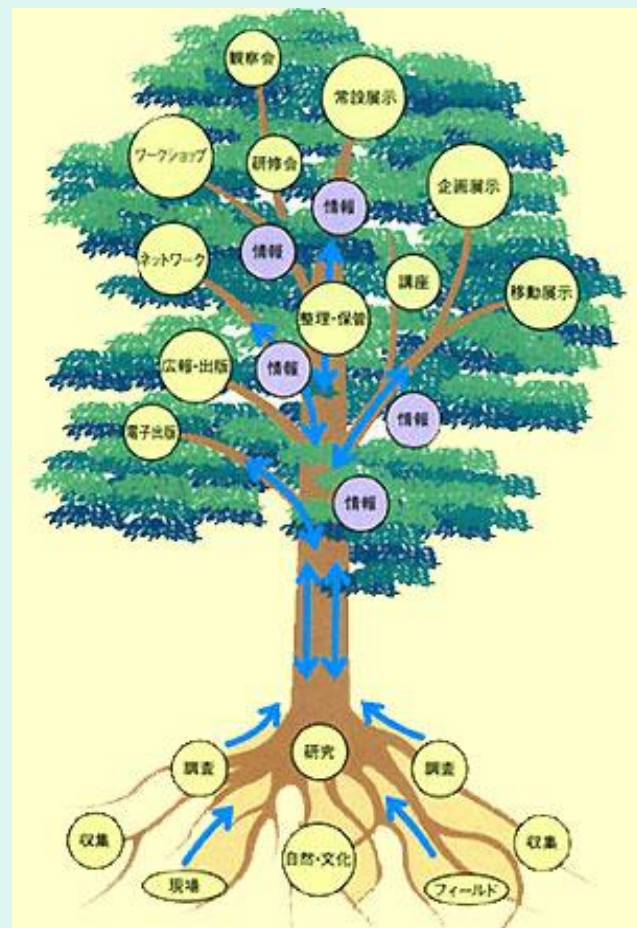
ホタル調査活動の継続

滋賀県立琵琶湖博物館

基本理念

- 1 「湖と人間」テーマをもった博物館
- 2 フィールドへの誘いとなる博物館
- 3 交流の場としての博物館

琵琶湖とその集水域の自然、
歴史、暮らしの理解を深め、
琵琶湖地域の人びととともに
「湖と人間」の新しい共存関係へ



住民琵琶湖博物館においても参加と琵琶湖フィールド調査

「はしかけ」

琵琶湖博物館を共に作って
いこうという自主的活動のため
の登録制度

- ・2000年頃から始まり
- ・複数のグループ
- ・テーマを持った調査活動

「フィールドレポーター」

滋賀県内の自然や暮らしについて、身の回りで調査をして、定期的に博物館に報告

- ・1997年頃から始まり
- ・「地域学芸員」
- ・任期は1年
- ・毎年3月後半に募集
- ・誰でも参加可能
- ・生活・文化関連(約30%)

住民参加型調査と琵琶湖博物館



では、展示室へ

KABATA (川端)





BRICK STOVE

BRICK STOVE WITH
SMALLER STOVE AND
WATER TROUGH FOR
COOKING. THE STOVE
IS BUILT IN THE
MIDDLE OF THE ROOM
AND IS USED FOR
COOKING AND BAKING.

WATER TROUGH

WATER TROUGH FOR
COOKING. THE
TROUGH IS BUILT
IN THE CORNER
OF THE ROOM AND
IS USED FOR
COOKING AND
BAKING.

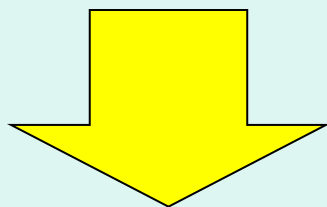
水文文化

なぜここに？

水と暮らしとは？

水環境の利用から保全へ

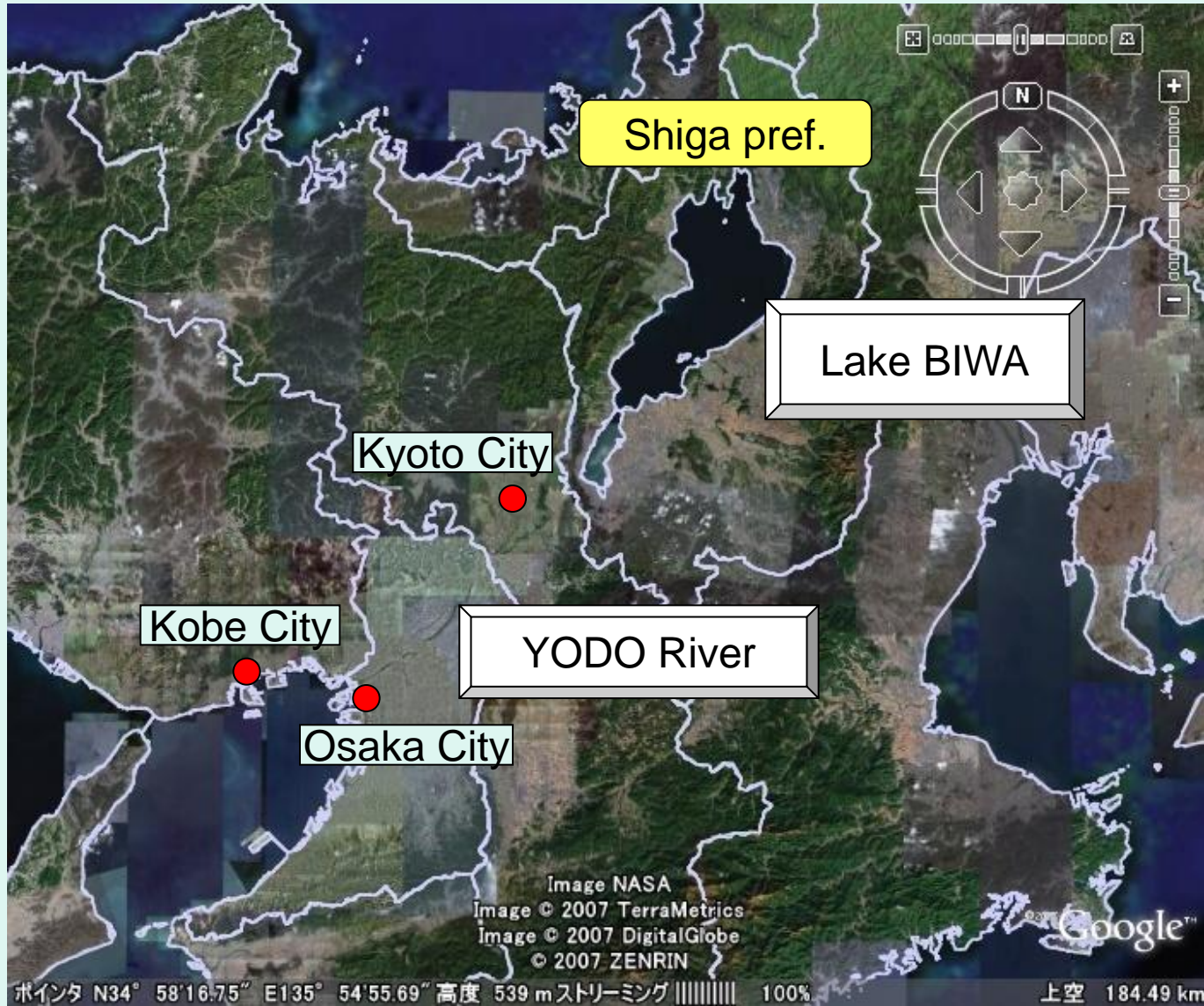
湧水施設の利用（琵琶湖・針江の事例）



- ・居住者・生活者の立場
- ・見落とされがちな価値や文化

人々と水との関り方

琵琶湖的位置





伝統的漁法
エリ

滋賀県



農村風景



約1400万人の水源地



生活文化 湧水の利用

- ①水でつながっている
(各家々、集落、河川から湖へ)
- ②特別な「お台所」など役割
- ③定期的川の清掃活動
- ④複数の管理組織
などなど



有る条件によって成立した「水環境」

生活文化を活かした地域活性化へ



地元独自の取り組み

- 生活上の規範
- 生活文化の継承
- 環境教育の場など

見学ツアー(年間約7000人)利用の受
容や関連イベントなど

地域通貨の発行

地元特産品の販売などな
ど



川と井戸を今でも使う地域



暮らしと水環境の保全

政策を考える
重要なヒント

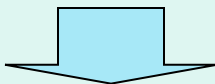
地元ならではの発信 生活文化 知る→広がる→親しむ



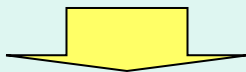
なぜ、現在まで水を綺麗にできるのか？

ある条件が存在する

- ① 特定な「かばた」 → 生活文化
- ② 生活の場としての環境を保全へ



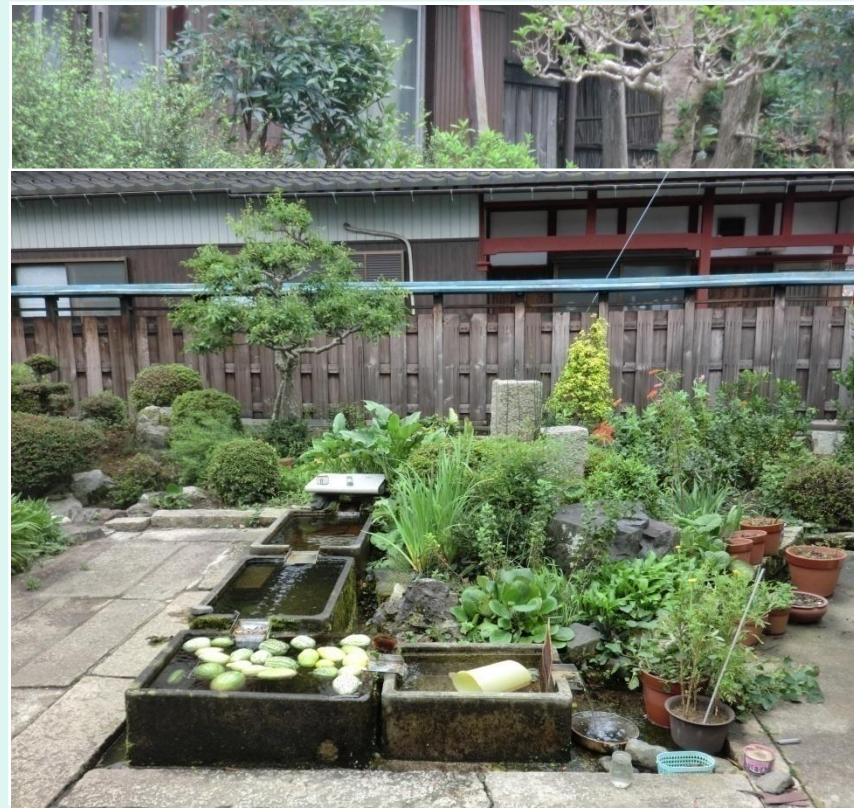
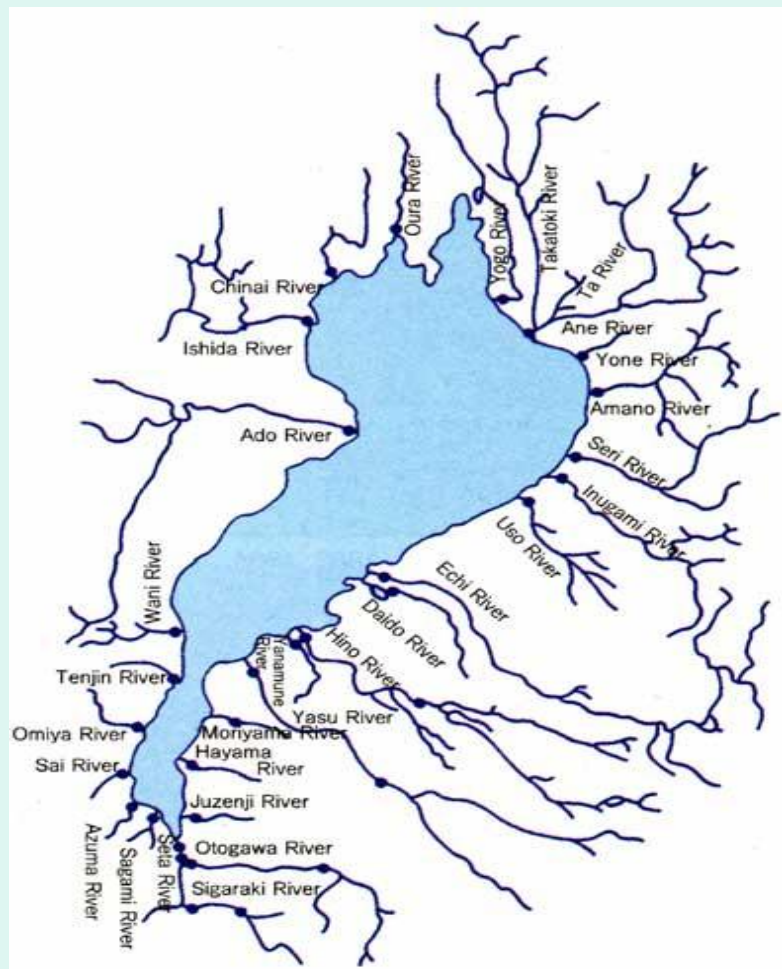
親しみやすい空間の創出へ



湖・水との関わりを取り戻しへ

地域の水利利用

琵琶湖への大きな影響



湖の保全→

暮らしに知恵

- ・琵琶湖と洞庭湖の条件の類似性
- ・地域固有の経験 → 生活文化
- ・生活環境主義の発想

(生活者・居住者の立場)



湖沼に共通する条件を加味した問題の理解と対話
また、博物館同士の連携
湖沼環境問題の解決に貢献するところは大きいのでは？

A photograph of a person standing in shallow water, silhouetted against a bright, shimmering sunset. The water is divided into a grid pattern by dark lines, possibly seaweed or a net. The sun is low on the horizon, creating a strong reflection and a golden glow across the entire scene. The person is in the center, facing left, with their arms slightly out. The overall mood is serene and peaceful.

ありがとうございます

2012年撮影